

乳幼児期からの人権保育

～2歳の生活から考える～



保護者・周りのおとなと
ずっと一緒だったのが…

自我の芽生え

自我の芽生えが顕著にあらわれるこの時期、子どもたちは「自分でやりたい」「できるだけやってほしい」「甘えたい」という思いの間で、心もからだも揺れ動きます。

子どもの「自分でやりたい」が思いどおりにできた時、その体験は自信につながります。では、うまくできずにイライラしたり、自分でできるのにおとなに甘えたりする時には、私たちはどのような声かけ、かかわり方をしていけばよいのでしょうか。

「おとなとのかかわり」「友だちとのかかわり」「もの・生きもののかかわり」を中心に、具体的な場面をとおして一緒に考えていきましょう。

「自分でやりたい」と
色々なことに興味を示し、
行動するようになる。



揺れる2歳です!!

抱っこ
して～

食べ
させて～

イヤイヤ
〇〇したく
ない

着替え
させて



『甘えたい』

できるけど
やって
ほしい～

揺れる2歳児

やりたい
けど
できない

『自分で』

手伝わ
ないで

もっと
あそびたい



私が
するの!

見てア

～人権保育プロジェクト活動から～

2019年度の人権保育プロジェクトでは、乳幼児期の子ども一人ひとりを尊重する“おとなのかかわり方”について話し合い、パンフレットにまとめました。

また、今年度はパンフレットにあわせた「絵カード」も作成しました。学習会等で子どもの言動の裏側にある気持ちを理解したり、子どもにどうかかわるかを出し合ったりするために活用していただければと思います。

子どもの育ちを見守るおとなとしての、よりよいかかわり方を私たちと一緒に考えていただけたらうれしいです。

2019年度人権保育プロジェクト メンバー一同

「マ」の2歳児

2歳児は、自我が芽生える大切な時期です。自他が少しずつ分離していくことで、子どもは自我を芽生えさせていきます。この時期特有の、子どもたちの「イヤイヤ」も今まで未分離だったおとなとの分離の契機です。この分離の過程では、自分の思い／他者の思い、自立／依存、安心／恐怖など様々な思いが子どもの中で交錯し、葛藤します。2歳児は、いつも相反する二つの思いの「間(マ)」にいます。

このような過程は、すべて、おとなのかかわり、子どもとのかかわり、物とのかかわりの「間(マ)」で生じます。おとなとのかかわり、自立と依存の「間(マ)」で、子どもとのかかわり、同一と差異の「間(マ)」で、物とのかかわり、好き／嫌い、快／不快、できる／できないなど様々な感覚の「間(マ)」で、子どもの自我は形成されていきます。

ところで、人権という観点からも自我が芽生えるこの時期は、重要になります。権利をもつ一人ひとりの子どもの自我が育ち、自分があることがその子どもの人権を考える前提だからです。例えば、「子どもの権利条約」の第12条は、子どもが自分の意見を表明する権利を謳っています。しかし、権利の主体である子どもが、好き／嫌い、快／不快といった意見をもっていないのでは権利を行使することはできません。

繰り返しになりますが、このような子どもの自我は、様々なかかわりとおして形成されていきます。この時期の子どもを「間(マ)」の存在と捉え、豊かなかかわりが生まれる遊びと環境を考えていきたいものです。

人権保育プロジェクト アドバイザー 鈴鹿大学短期大学部 長澤 貴

このパンフレットは、
公益社団法人 三重県人権教育研究協議会の
ホームページからダウンロードできます。

<https://www.sandokyo.jp>



ホーム
ページ
QR
コード

- ▶2006年度／「節分・雛祭りを人権保育の視点で考える(中間報告)」
- ▶2007年度／「節分・雛祭りを人権保育の視点で考える(最終報告)」
- ▶2008年度／「いじめ対応の根っこにあるものは？」
- ▶2009年度／「多文化共生から人権保育を考える①」
- ▶2010年度／「多文化共生から人権保育を考える②」
- ▶2011年度／「多文化共生から人権保育を考える③」
- ▶2012年度／「多文化共生から人権保育を考える④」
- ▶2013年度／「自尊感情を育むには…」
- ▶2014年度／「自尊感情を育むには…②」
- ▶2015年度／「あそぼう!つなごう!～心をつなごう意図的なふれあい活動をどのように展開するか～」
- ▶2016年度／「ともに育ち合う保育～「障がい児共生保育」の視点から考える～」
- ▶2017年度／「ともに育ち合う保育～保護者とともに～」
- ▶2018年度／「乳児期からの人権保育～1歳の生活から考える～」
- ▶2019年度／「乳児期からの人権保育～2歳の生活から考える～」